

# タイトル

## 目次

- 一. さんいんの民話シリーズ  
ふるさとの民話 第Ⅰ集 出雲編
- 二. さんいんの民話シリーズ  
ふるさとの民話 第Ⅱ集 石見編
- 三. さんいんの民話シリーズ  
ふるさとの民話 第Ⅲ集 隠岐編
- 四. さんいんの民話シリーズ  
ふるさとの民話 第Ⅳ集 鳥取県東部編
- 五. さんいんの民話シリーズ  
ふるさとの民話 第Ⅴ集 鳥取県中部編
- 六. さんいんの民話シリーズ  
ふるさとの民話 第Ⅵ集 鳥取県西部編
- 七. さんいんの民話シリーズ  
ふるさとの民話 第Ⅶ集 出雲編Ⅱ
- 八. さんいんの民話シリーズ  
ふるさとの民話 第Ⅷ集 石見編Ⅱ

九. さんいんの民話シリーズ ふるさとの民話 第6集 隠岐編Ⅱ

十. さんいんの民話シリーズ ふるさとの民話 第10集 鳥取県東部編Ⅱ



## 一 夜明け前

### ダミーテキストです

木曾路はすべて山の中である。あるところは岨づたいに行く崖の道であり、あるところは数十間の深さに臨む木曾川の岸であり、あるところは山の尾をめぐる谷の入り口である。一筋の街道はこの深い森林地帯を貫いていた。東ざかいの桜沢から、西の十曲峠まで、木曾十一宿はこの街道に添うて、二十二里余にわたる長い谿谷の間に散在していた。道路の位置も幾たびか改まったもので、古道はいつのまにか深い山間に埋もれた。名高い栈も、薦のかずらを頼みにしたような危い場処ではなくなって、徳川時代の末にはすでに渡ることのできる橋であつた。新規に新規にとできた道はだんだん谷の下の方の位置へと降つて来た。道の狭

いところには、木を伐つて並べ、藤づるでからめ、それで街道の狭いのを補った。長い間にこの木曾路に起こつて来た変化は、いくらかずつでも嶮岨な山坂の多いところを歩きよくした。そのかわり、大雨ごとにやつて来る河水の氾濫が旅行を困難にする。そのたびに旅人は最寄り最寄りの宿場に逗留して、道路の開通を待つこともめずらしくない。この街道の変遷は幾世紀にわたる封建時代の発達をも、その制度組織の用心深さをも語っていた。

鉄砲を改め女を改めるほど旅行者の取り締まりを厳重にした時代に、これほどよい要害の地勢もないからである。この谿谷の最も深いところには木曾福島の関所も隠れていた。木曾路はすべて山の中である。あるところは岨づたいに行く崖の道であり、あるところは数十間の深さに臨む木曾川の岸であり、あるところは山の尾をめぐる谷の入り口である。一筋の街道はこの深い森林地帯を貫いていた。東ざかいの桜沢から、西の十曲峠まで、木曾十一宿はこの街道に添うて、二十二里余にわたる長い谿谷の間に散在していた。道路の位置も幾たび

か改まったもので、

41W×11L

注…古道はいつのまにか深い山間に埋もれた。

## 二 夜明け前

ダミーテキストです

木曾路はすべて山の中である。あるところは岨づたいに行く崖の道であり、あるところは数十間の深さに臨む木曾川の岸であり、あるところは山の尾をめぐる谷の入り口である。一筋の街道はこの深い森林地帯を貫いていた。東ざかいの桜沢から、西の十曲峠まで、木曾十一宿はこの街道に添うて、二十二里余にわたる長い谿谷の間に散在していた。道路の位置も幾たびか改まったもので、古道はいつのまにか深い山間に埋もれた。名高い栈も、薦のかずらを頼みにしたような危い場処ではなくなつて、徳川時代の末にはすでに渡ることのできる橋であつた。新規に新規にとできた道はだんだん谷の下の方の位木曾路はすべて山の中であ



る。あるところは岨づたいに行く崖の道であり、あるところは数十間の深さに臨む木曾川の岸であり、あるところは山の尾をめぐる谷の入り口である。一筋の街道はこの深い森林地帯を貫いていた。東ぎかいの桜沢から、西の十曲峠まで、木曾十一宿はこの街道に添うて、二十里余にわたる長い谿谷の間に散在していた。道路の位置も幾たびか改まったもので、古道はいつのまにか深い山間に埋もれた。名高い栈も、薦のかずらを頼みにしたような危い場処ではなくなって、徳川時代の末にはすでに渡ることのできる橋であった。新規に新規にとできた道はだんだん谷の下の方の位